SABERFISH
熱い性の衝動のまま
場所も選ばず快楽セックス
フフ。今日もとても逞しいです。
今夜も私の身体に、思う存分
君の熱いザーメンをくださいね。
劣情喚起
肉棒と中出しを求めるオンナ達!!

妊娠してしまい、産休を取っていた私は、
任務を終えた彼が戻るとすぐに肉棒を求めてしまう。
彼の前ではすっかり素直になってしまった私は、
今日もチンポをしゃぶりながら射精をねだる。
「ジュポッジュポッ、ジュブルル～ッ。
ビンビンチ●ポ、おいひしゅぎるぅ……」
「ジュブジュブッ、ジュルル～ッ、ジュパパッ！
んぶあぁ、もうダメ、身体がうずいてぇっ！」
どクッ
はーっ
はぁ
くぷっ♥
じゅるる♥
ふる…

「おねがいっ、セックスして、オマンコしてえっ！
もうオマンコヒクヒクで、ガマンできないいっ！」
「すっかり快楽に素直になったな、リヴィ。
ボテ腹のくせにまんぐりポーズでチ●ポおねだりか？」
「ンアァッ、だって私、
チ●ポ大好きになっちゃったからっ！
オマンコのヨダレ、ンハァ、とまらないからぁ……」
ねぇ…
はーっ♥
はーっ♥
はやくぅ…
ピクッ
ピクッ
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ
ぴくっ！

「どこにチ●ポをぶち込んでほしいんだ？
もっとおねだりしないと入れてやらないぞ」
「うぅ、イジワルしないで……。
ココ、この穴に、このスケベ穴にチ●ポォッ！」
「ヨダレ垂らしてビクついてるドスケベマ●コに、
キミのガチガチチ●ポぶちこんでぇ～っ！！」
ふるる…
はー
ああ…
はっ♥
ヒクヒク
ヒクッ♥
ビクッ♥
ビクッ
ひくっ

「ハヒイィ～ッ！？
きたぁっ、チ●ポズブズブきたぁ～っ！！」
「くうぅ～っ！　なんて吸いつきだっ。
おねだりマ●コがチンポをしゃぶりまくってるぞっ！」
「だってぇ、アンアンッ、きもちいいからぁっ！
奥までズンズンされて、
アッアッ、しあわへだからぁっ！」
ふぁあぁっ!!
ビクッ
ビク
ビク
はーっ
はーっ
にちゃ…
キュン♥
キュン♥
ぬぷぷ…
ひくんっ!

「くおぉっ、だ、出すぞっ！
おねだりマ●コにたっぷりナカ出しだっ！！」
ああぁ～♥
ぁぁ♥
「ソアヒイィーンッ！！
きたぁっ、ナカ出しザーメン
ビュルビュルきたぁ～っ！」
ハァ♥
ハァハァ♥
ドクドクッ
キュ♥
ドプン！
キュン♥
フルルッ！
びゅびゅびゅるるっ！
「イクッイクッ、イクウゥゥーッ！！
ンヒアァッ、まだ出てるっ、
ドクドクたくさん出てるぅっ！
オマ●コイキッぱなしになるぅ～っ！！！」
ビクビクッ

「そらっ、イキまくりのアヘ顔とドスケベボディにもぶっかけてやるっ！」
「ンハアアンッ、ザーメンくしゃいい、ドロドロでイクッ、イクゥ～ッ！！アアン、でも、チ●ポが抜けてザーメンあふれてるぅ。オマ●コからザーメン垂れっぱなしにぃ……」
「ンアァァ、してぇ、もっとナカ出ししてぇ～っ。こぼれたザーメンの分、ドピュドピュしなおしてぇ～っ」
私は精液塗れでビクビクイキまくりながら、オマンコを広げてさらなる射精をねだるのだった……。
ひく…
はーっ…♥
はーっ…♥
んぁあ…
ぴくっ♥
ごぴゅっ…
とぷぷぷ…
びくんっ♥

おなかが大きくなってしまい産休をもらった私は、
任務の終了を彼の部屋で待ちわびていました。
彼が戻ると私はすぐにその服を脱がせ、
自分も裸になって彼の上に跨ってしまいます。
「今日も任務、おつかれさまでした。
今は一緒に出撃できませんが、
私の身体でどうか溜まった疲れを癒してくださいね」

「アァッ。す、すごいっ。
もうオチ●ポがこんなに大きく……。
任務で昂ってしまったのですね。
どうぞ、私のオマ●コで吐き出してください」
「発情してるのはシエルの方だろ？
ボテ腹のくせに、うっとりチンポを見つめて
マ●コからダラダラ汁を垂らして……。
そんなにチ●ポがほしかったのか？」
「ンアァッ、そ、そんなことは……。
ただ、私は君のためにと……ンハァンッ。
ほら、オチ●ポ、ビクビクしてますよ。
早く、この穴にズップリとハメてくださいっ！」
ビクッ
びくんっ
びくんっ！
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ハァン♥
はーっ♥
キクッ♥
キクッ♥

「ンホオォォーンッ!?
そ、そこはちがいまひゅ、アナルれひゅうっ。
ど、どうしてそっちに、アッアッ!
アナル、グポグポおかされてますぅ〜っ!」
「俺を癒してくれるつもりだったんだろ?
なら俺の好きな方の穴を使っていいよな。
それにシエルのドスケベアナルは、
よろこんでチ●ポを締めつけてるぞっ」
「アンアンッ、そ、それはぁっ……。
うぅ、君はイジワルです。
でも、アハァンッ、アナルきもちいいっ!
アナルズボズボ、うれひいですぅ〜っ!!」
あぁ♥
ゼクゼク
ヒクッ…
ズプッ!
ズンッ

「ひうぅ～っ！！！
オッパイ、アッアッ、つぶしちゃダメェッ！
オッパイそんなにギュッてしたらぁ、
ジンジンして、ミルクでひゃいますぅ～っ！！！」
「オッパイをギュウギュウつぶすたびに、
アナルがギュムギュム締まってるぞっ！
ミルクを垂らしながらアナルでアヘッて、
清楚な顔してとんだドスケベママだなっ！」
「アヒッ、ハヒッ、ごめんなひゃいいっ。
私はアナルもだいしゅきですっ！
ママになるのに、大事なミルクこぼひて、
アナルレイプでアヘッちゃいまひゅ～っ！！」
ぶるんっ！
はっ♥
はーっ♥
ぎゅむむっ！
どんっ
ずっ！
じゅぷっ！
ヒクッ♥
ヒクッ♥
ぶちゅっ!!
ひくっ

「ンホオオォ〜〜ンッ!!
イクッイクッ、イクウゥゥ〜ッ!!!
アナルにドピュドピュザーメン出されてぇっ、
アヒィンッ、乳首ひっぱっちゃらめえぇ〜っ!!」
「くうぅ〜っ!
アクメアナルにザーメン搾り取られるっ!
乳も潮もピュルピュル噴いて、
本当にドスケベボディだなシエルはっ!」
「ンハアアンッ、ご、ごめんなひゃいいっ。
オッパイがとまらにゃい、アンアンッ、
オマ●コのお汁もとまらにゃいい〜っ!
アナルドロドロになってイキまひゅう〜っ!!」
ビクビクッ
ひゃぁ♥
あぁ♥
ひゅびゅびゅっ!
ビクッ!
ドプッ
プシュッ
プシュッ
プシュッ
プシュッ
ビビビ…
ひくっ

アナルでビクビクとだらしなく絶頂を繰り返す
私を押し倒し、彼は馬乗りになりました。
そして胸の谷間に押しつけられる、
いまだビンビンの逞しすぎる勃起オチ●ポ。
「そらっ、乳を噴きまくる
シエルのエロオッパイもチ●ポで犯してやるっ。
やわらかオッパイがミルクでヌルヌルで、
くうぅ～っ、た、たまらないぞっ！！」
「ンハアァンッ！ オッパイの谷間に、チ●ポがぁっ。
アンアンッ、オッパイあついですっ
オチ●ポズリズリされて、ジンジンしてえっ！
ミルクがとまらなくなっちゃいますぅ～っ！！」
ヒク
はぁ♥
はーっ
ビンッ
ぶるるる…
ぶちゅ…
キュン♥
ムニュ…
ヒク
ヒクッ♥

「ハヒイィィ～ンッ！！！
顔にザーメンッ、ビチャビチャかけられてぇっ！
んぶあぁっ、ザーメンあちゅい、くひゃいい、
ザーメンまみれてイッちゃいまひゅう～っ！！！」
「くあぁぁ～っ！！！
清楚なシエルに顔射、たまらんっ！
乳からミルク垂らしまくりのドスケベママを、
ザーメンミルクまみれにしてやるぞっ！」
「あぶぶっ、んふあぁぁ～んっ！！！
うれひいです、もっとドロドロにひてくだひゃいっ！
君のクラクラしゅるニオイに包まれてぇ、
ンハァンッ、イクイクッ、顔射でイキまひゅう～っ！！！」
ぶびゅびゅっ！
ビクッ
ハァッ♥
はっ♥
はぁぁっ♥
あぁぁぁぁ♥
ビクッ
ブルルル！
キュン♥
キュン♥
たゅんっ
ヒク

「ンハアアア～ッ……
しゅ、しゅこいれしゅ……
私の顔、ザーメンまみれでベトベト……
オッパイにもこんなにドロドロがたまってぇ……」
はぁ…♥
ハフ…
あはぁ…♥
ビクン
「たっぷりとぶっかけられて、
ドスケベな顔になってるぞ、シエル。
気持ちよかったか？」
プル…
「はひぃ……
アナルをグポグポされるのも、
オッパイを犯されて顔射されるのも、最高でした……
ハァン、またオッパイからミルクがこぼれちゃう……」
プル…
ドロォ…
ビクン
とろ…

私を絶頂させザーメン塗れにした彼は、満足げに笑い私から離れようとしました。でも私は彼を捕まえ、ザーメン塗れのオチンポをジュポッとお口で咥え込んでしまいます。
「ンポポッ、ジュパッジュパッ。ま、待ってくだひゃい。オチ●ポ、ザーメンでドロドロでひゅ。キレイにしないと……ジュポッジュポッ」
お掃除フェラという建前で、ザーメン臭いオチ●ポを下品におしゃぶりします。すると彼のオチ●ポは、みるみるうちにまたギンギンに漲ってゆきます。
ヒク…
ハフッ♥
ヌロォ…
ピクッ
ヒク…
ンン…♥
ヒクッ
ジュウウッ
ヒク
んむっ…♥
ビくん…
キュン♥

「んぶあぁっ……
また大きくなってしまいましたね、オチ●ポ。
これは今度こそ、オマ●コにドピュドピュして
スッキリしないといけませんね」
「まったく、困ったドスケベママだなシエルは。
そんなにおねだりされたら、
しないわけにはいかないよな、ナカ出しセックスをさ」
彼のオチ●ポが、ビクビクッと大きく震えました。
その逞しい姿をうっとりと見つめながら、
私は先程よりもはしたなく汁塗れになった股間を
彼に見せつけ、挿入をねだってしまうのでした……。
ビク…
ハァ…
ヒクン
ぱーっ
ブルル…
ヒク
ブルル…
キュン

「ううっ、ごめんなさ～い。ンアァ、おしり、ヒリヒリするよぉ。真っ赤になっちゃってジンジンうずいて、カラダがあつくて、たまんないよ～」
ジィィィン
フリ♥
「なんだ？オシオキでますます発情しちゃったのか。しょうがないな、ナナは。マ●コにもオシオキしてほしいのか？」
ゼクッ
ヒクッ
ヒク
フリ♥
「うんっ！してっ、オマ●コにオシオキしてぇ～っ。ビンビンのチ●ポで、いっぱいズボズボオシオキしてほしいよ～っ」
ビクッ
ヒク
ハァハァ♥
ハァ♥

「ひゃうぅぅーっ！？
そ、そこ、アナルだよっ？
オマ●コじゃないよぉ～っ、
アンアンッ、アァアンッ！」
ヒク
ヒク
にちゃぁ…
ビクッ
ビクッ
プップ…ッ
「オシオキで悦ばせても意味がないだろ。
ガマンができないナナには、
マ●コはおあずけで
たっぷりアナルレイプだっ！　そらそらっ！！！」
ふぁぁ♪
はーっ
はっ
ヒクッ
「アヒッアヒッ、ハヒィ～ンッ！！
アナルズボズボッ、アッアッ、
おひりがますますジンジンするよぉ～っ！
でもでも、アアン、アナルヒクヒクしちゃうよぉ～っ」
ヒク

「あ～あ～、
オシオキ中なのにミルクが溢れ出したぞ。
これじゃオシオキにならないじゃないか。
こまったドスケベママだなぁナナは」
「アンアンッ、ミルクでちゃうぅ～っ！
だってぇ、チ●ポきもちいいんだもんっ。
私、アナルもオマ●コなのっ！
オマ●コもアナルもチ●ポだいすきなのぉ～っ！！」
ヒク
ムニュッ
キュン
キュン
プシャアアア！
ヒク
プシュッ
プシッ
グニュ

「くはあぁ～っ！
ドスケベアナルにザーメン搾り取られるっ！
ナナ、出すぞっ。大好物のザーメン
アナルでグビグビのみこめっ！！」
キュウウン
ビュ～～ッ
ビクッ
ビクッ
ビュルルッ！
「きゃうぅう～～んっ！！
イクッイクッ、イッちゃうよぉ～っ！！
ビュクビュクザーメンだされて、
ナナのアナルマ●コイッひゃうのおぉ～っ！！」
ビクッ
ビクッ！
ブルッ
ビクッ
ハァ♥
ハァ♥
あぁん♥
ヒクッ
「んはあぁぁ～っ
おしりのなか、ザーメンでドロドロらよぉ。
アナルがキュンキュンふるえちゃってぇ、
ヒアァンッ！ またイッちゃうよぉ～っ！！」

ザーメンでドロドロになっちゃった
アナルがきもちよくて、ぼ～っとしてたら、
おしりをグニッて掴まれて、
向かい合うポーズに変えられちゃった。
はぁ…♥
はーっ♥
ひく
ビクッ
「ほ～らナナ。
チ●ポはまだまだビンビンだぞ。
アナルでイッたばかりのスケベな身体を、
このままズポズポ犯してオシオキだ」
すり…♥
トロォ…
「はうぅ～。ガチガチのチ●ポに、
オマンコズポズポッてオシオキされちゃうよぉ」
そう言いながらも私はうれしくて、
ヌルヌルのオマ●コをチ●ポにスリスリしちゃうんだ。
ゼク…
ギ・ギ・ギ
ヌチュチュ…

「ンハアアンッ！！
オマ●コにチンポ、入ってきたぁ～っ。
アンッアンッ、ズブッズブッてぇ、
きもちいいっ、チ●ポきもちいいよぉ～っ」
「ハハッ。オシオキだっていうのに
やっぱり悦んじゃうんだな、ナナは。
でもどうした、そんなに尻をフリフリして？」
「そ、それはぁ……アンアンッ！
おしりがぁ、おしりがあつくてぇ、アアンッ！」
腫れ上がったおしりを撫でながらの、優しいズボズボ。
うれしいけど、でもなんだか私は物足りなくて……。
ヒク
ビク
はぁっ
はーっ♥
フリ♥
んあぁ♥
ビクッ!!
ズプププ…
ぐむむっ
ヒク
フリ♥
ズンッ

あぁぁ♥
ハッ♥
ハァッ♥
ビク
ひゃうんっ
「ひゃうぅんっ！？
急にズボズボッ、アンアンッ、はげしいよぉっ。
それに、ひゃぐぅんっ、
アナルまで指でグリグリひて、ひうぅ～んっ！！」
「食いしん坊で欲張りなナナは、
もっと激しくズボられないと物足りないんだろ？
そらそらっ、イキたかったら、
もっとスケベにおねだりするんだっ！」
ヒクッ
ガクッ
ガクッ
グプッ
グプッ
グプッ…！
プシッ
プシッ
ズボッ
ズブッ
ヒク
ビクッ
ヒク
「アンアンッ、きゃはぁんっ！！
食いしん坊でごめんなさぁいっ！
でも、アッアッ、激しいセックスすきなのぉっ！！
オチ●ポでズボズボだいしゅきなのぉ～っ！！」

はぁぁぁん♥
はっ♥
はっ♥
ビクビクッ
ビクッ
ピクッ
ぶびゅるるるっ
ゴプッ
キュッ
グリュリュ…
キュウ♥
ぶびゅるるるっ!
「やっぱりナナに躾けはムリだったか。でもナナは素直な方がかわいいなっ。そらっ、アナルをグリグリしながら、大好物のザーメンをナカ出しだっ!」
「きゃうぅぅ〜んっ!! ザーメンビュルビュル出てるよぉ〜っ! アンアンッ、オマ●コ、オマ●コイクゥッ! ナカ出しザーメンでオマ●コイッちゃうよぉ〜っ!!」
「んほおぉぉっ、アナルグリグリらめぇっ! オマ●コにドビュドビュされながら、アアンッ、ドロドロア●ルをくぽくぽされたらぁ、アナルもいっしょにイキまくっちゃうぅ〜っ!!」

あぁ…♥
はーっ
ハァ…♥
ビクッ
ヒク
「ふあぁぁ～っ
いっぱいイッちゃったぁ……
身体に力が入んなくて、くうぅんっ！
アナルからザーメン、ビュルッててひゃうぅ～っ」
「たっぷりマ●コでザーメンのんで、
気持ちよかったか、ナナ？
アナルからザーメンもらしてるのに、
マ●コはまだチ●ポをしゃぶってるぞ」
ヒク
ビュルルッ
ビクッ
彼の言う通り、もう身体に力が入らないのに
オマ●コはチ●ポをジュパジュパしゃぶっちゃってる。
やっぱり私って食いしん坊なんだなぁと思いながら、
カレにますますギュ～ッてしがみついちゃったんだ……。
プピュッ♥
ビクッ
きゅうん♥

部屋中に響き渡る、複数の牝の甘い鳴き声。
エリナ、ジーナ、カノン、アリサと美少女4人に、
俺はベッドの上に全裸で押さえつけられていた。
彼女達のお腹は、いずれも大きく膨らんでいる。
「やったぁっ！
わたしが先輩の舌、いただき～♪」
「私はチ●ポをいただくわ。悪いわね。
先にイカせてもらうわよ。フフフ……」
「あうぅ～、お二人がイクまで私、おあずけです。
早くオマ●コしたいのに～」
「わたしもおあずけですね。それにしても、
全員孕ませちゃったなんてドン引きです。ウフフッ」

はあ…っ♥
はーっ
ヒク
ヒク
「ほ〜ら先輩、わたしのオマ●コ、たっぷりペロペロしてくださいね、犬みたいに。ホントはオチ●ポほしかったのに、先輩が浮気するからわたしの番が減って、アンアンッ！」
「悪かったよ、エリナ。かわいいマ●コ、たっぷり舐めてやるから機嫌直してくれよ。ペチョッペチョッ。マ●コ、汁が溢れ出したぞ、ジュルル〜ッ」
ゼクッ
レロォ…
キュン♥
キュッ
ヌト
ヌト
ゼクッ
「ひゃうぅんっ！　先輩のアツイ舌が、オマ●コのお肉をペロペロ、アアンッ！オマ●コきもちいいっ、アッアッ！お汁があふれちゃうよぉ、ひあぁ〜んっ！！」

あはぁ…♥
ギンギンッ
すりっ
チチュッ
ヌル
すりっ
「フフフ……。エリナの股間に犬のように顔をうずめて、オマ●コをベロベロなめて……。それでこんなにチ●ポを勃起させているだなんて、やっぱり変態ね、あなたは……ンハァン……」
「くうぅ～っ。ジーナ、そんな目で見ないでくれ。見下されながら素股されて、くうぅっ！ますますチンポがガチガチになっちまうっ！」
「孕ませたオンナに素股で攻められて、ビクビクはちきれそうよ、あなたのチ●ポ。あなたのそんな獣じみたところが、たまらないの。またこの肉の棒でメチャクチャにされたいわ……」

「も〜っ！
ちゃんとわたしのオマ●コに集中してよっ！
そんなにオトナの女のヒトがいいの？
アッアッ、アァンッ！　舌、ベロベロきたぁっ！？」
「そんなことないって、ベチョベチョ〜ッ。
エリナのかわいいマ●コにもメチャクチャ
興奮してるよ、ジュルル〜ッ。
このマ●コを孕ませたと思うと、最高だっ！」
「アンアンッ、キモチイイッ、きゃうぅんっ！
そ、そうだよっ。先輩がわたしのオマ●コ、
エッチにして、妊娠させちゃったんだからぁ。
ちゃんとしてくれなきゃ、ンアァッ、ダメェ〜ッ！！」
ひぁあぁん♥
はっ♥
はひっ
ヒク
ビクビク
キュ
ジュルルッ
ヒクッ
キュン
ヒクッ
ヌロヌロ
ピクッ
ベチョォ…

「ひぎいいい～っ！？
エリナのオマ●コをイジメながら、アッアッ、
私のオマ●コも攻めるつもりなのねっ。
極太チ●ポが、ハヒィッ、奥をグリグリィッ！」
「ジーナに呆れられたままじゃいられないからな。
ジーナの好きなケモノみたいなファックで、
クールなフリしたドスケベ発情マ●コを
突きまくってやるよ！　オラオラ、オラッ！！」
「ハヒイィ～ッ！　アッアッ、アヒイィィ～ッ！！
いいわっ、ズボズボ犯されるの、たまらないわっ。
私は何番目の女でも構わない、こうして
あなたが犯してくれるのなら、ンハアアンッ！！」
ズボッ
ズブブブ
ズボッ
ズボボッ
ビチュッ
ヒクン♥
ヒクン♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「アンアンッ、ハアァンッ！
後ろからすっごくエッチな声、きこえてくるうっ。
きっとすごくズボズボされちゃってるんだっ！
私もエッチなキモチがとまらないよぉ、ヒアァンッ！」
「エリナのかわいい発情マ●コ、
汁が垂れっぱなしでパクパクしてるぞっ。
ほら、イカせてやるっ！ クリを攻めながら
マン肉舐めまくってやる、ペロペロペロ～ッ！！」
「ひゃうぅっ、アッアッ、ヒアァァ～ンッ！！
クリしゅごいっ、オマ●コとろけりゅぅ～っ！
イクイクッ、オマ●コイカされちゃうぅっ！
奥からなにか出てっ、んひゅあぁぁ～っ！！」
あっ
ひんっ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヒク
ヒク
ヒク
ヒク
ヒク
ゾクッ
ゾクッ♥
アッアッ！
プシッ
チュッ
プチュッ
レロレロォ！

イくっ♥
はッ♥
はーっ♥
あぁぁっ♥
ゼクッ
キュッ♥
ヒクク
プッ♥
キュウウッ
ゼクッ
プッ♥
ゼゼゼ…
キュッ♥
プルプル
「アァ〜ッ、ンアァァ〜ッ!!!
オマ●コイクイクッ、イッちゃうよぉ〜っ!!!
ピクピクがとまんない、お汁がとまんないいっ!
先輩のお顔、汚しながらイキまくっちゃうぅ〜っ!!!」
「ベロベロッ、ジュパパッ!
ああ、エリナの潮噴きマン●コ美味いぞっ。
啜ってるだけでチ●ポが爆発しそうだ、
ジュルル〜ッ、ぷはっ、最高だ!」
「ひあぁぁ〜、先輩の、ヘンタイィ……。
れも……興奮してくれて、うれひいよぉ……」
恥ずかしい潮噴きマ●コをうれしそうにモグモグしてる
先輩を見ながら、わたし、気を失っちゃった……。

「ンハアァァ～ッ！！
出てるわっ、ビュクビュク射精してるわっ！
エリナの愛らしいオマ●コで昂った欲望を、
私のオマ●コにドピュドピュ排泄、ンアァ～ッ！！」
「そうだ、エリナのアクメマ●コを味わって
溜まったザーメン、ぶちまけてるぞっ！
もちろん腹ボテジーナのマ●コでも興奮しまくりだ！
ジーナのマ●コにたっぷりザーメンマーキングだっ！！」
「アヒイィッ、アッアッ、ンヒアァァ～ッ！！
私のオマ●コでも、アァッ、興奮して種付けっ！
私のオマ●コは、あなた専用の排泄穴っ！
興奮したら即ドピュドピュしてっ、ンハアァ～ンッ！！」
ヒクッ
ドクドクッ
ドクッ！
キュキュッ♥
ビクッ！
出てるっ……
あぁ♥
ヒクッ
ひぁ♥
あぁ♥
ビクッ

「フフフ……オマ●コがドロドロだわ。
開ききったオマ●コから、ザーメンがこぼれているわ。
どうかしら、妊娠したオンナのオマ●コを
ザーメンでたっぷりと汚し尽くした感想は……」

「ああ、最高の気分だよ。
ジーナのマ●コはもう、俺だけのモノだ。
これからもたっぷり使って、
下からザーメンゴクゴク呑ませてやるからな」

「ンアァ……楽しみね……」
誰で興奮してもかまわない。
この穴にたっぷりとザーメンを流し込んでもらえるなら。
私は悦びに浸り、陶然と快楽に酔いしれていた……。

射精を終えて立ち上がると、
アリサが俺の股間に四つん這いで早速すり寄ってきた。
舌なめずりをしながら、淫蕩な顔で
残滓塗れの肉棒を見つめるアリサ。
「アハァ、やっとわたしの番ですね。
もうわたし、興奮しすぎてクラクラしてますよ。
早くオチ●ポほしい、オマ●コにほしいですっ。
あなたのメス犬アリサに、早くザーメンください」
「鼻息を荒くして、舌で唇をペロペロ舐めまわして、
本当にメス犬みたいだぞ、アリサ。
あのツンとしたアリサが、今はこんなにドスケベだ。
ほら、もっとザーメンねだってみせてくれよ」
ピク
プル
ペロッ

「ンハァ、イジワルですね。
でも、ますます興奮しちゃいます。
このやらしいカラダのメス犬にぃ、レロォ〜ン、
ガチガチオチ●ポっこんでくださぁい、アハァ」
「くぅ〜っ、なんておねだりだ。
ドスケベすぎて、腰がガクガクしちまうっ。
オッパイから母乳まで漏れてるぞ。
発情しまくりだな、メス犬アリサはっ」
「アハァン、そうですよぉ。
自分でもドン引きするくらい、アハァ、
オチ●ポがほしくてほしくてたまらないんです。
オチ●ポのためなら、なんでもしちゃいますぅ」
ゼクッ
ヒクッ
ビクッ
ビビッ
ぷるるっ
ヒクッ

「ほらぁ、見てくださぁい。
ンアァ、わたしのオマ●コ、お汁でベショベショです。
発情しまくりのはしたないオマ●コ、ハァン、
オチ●ポぶちこみたくなりますよねぇ？」
「ああ、メチャクチャ興奮するよ。
あのアリサがマ●コを濡らしながら
ポテ腹ゆらしてチ●ポをねだってるんだからな。
今すぐにでもぶちこみたくなるっ！」
「ハァン、はずかしいです。
でも、アハァ、あなたが興奮してくれるほど、
わたしもたまらなく発情しちゃうんですっ。
はやく、はやくオチ●ポズボズボしてくださいぃ～っ」
ヒク
イリ♥
たゆんっ
キュ♥
キュン♥
フリ♥
ヒク
ビク
ハっ♥
はっ♥
ぶるぶる…

「ダメ～ッ！　ぐぽぽっ！
教官先生、私もう、オチ●ポ待ちきれまひぇんっ！
アリサさんにはわるいれひゅけど、ジュポジュポッ、
私に先にオチ●ポくらひゃいい、ジュチュチュ～ッ！！」
「くはあぁぁ～っ！
そ、そんなにチ●ポを吸いまくられたら、くぅ～っ！
カノン、後でちゃんとしてやるからっ。
今は順番、くはぁっ、しゃぶりぬかれるぅ～っ！」
ヒク
はぁ♥
はーっ♥
ピクッ
くぽ
くぽ
ギン
ギン
ちゅぷぷっ♥
ヒク

「そんなに待てまひぇんっ、チュパパッ。
おねがいれひゅ教官先生、ベチョベチョッ、
私を先にひてくらひゃいっ！
ほら、教わったテクニック、どうれひゅか、レロレロッ」
「くうぅ～っ！
尿道口にカノンのヌルヌルの舌がっ。
それに、たっぷりデカパイでチ●ポを挟んでっ。
うあぁ、よく勉強したな、カノンッ」
「ハイッ！　チロチロッ、教官せんせぇに、
たくさん興奮ひてもらいたくてぇ、
ザーメンたっぷりタマタマに集めてほひくてぇ、
エッチな訓練たくさんしたんれひゅ、ネチョネチョッ」
ぷるんっ♥
ぐにぐにっ
ピク♥
はっ♥
ちゅるる♥
ギッ
ギッ
ギッ
ぐぢゅ
ピクッ
ムニッ
キュッ♥
キュッ♥
はぁ～♥

「ほ～ら、教官先生のダイスキな大きなオッパイでパイズリですよ～。オッパイミルクも、ンハァッ、たくさん出しちゃいますよぉ。私に射精したいでしょ～、ンアァ、したいよねぇ？」
「くあぁ～っ！わ、わかった、カノンに先にしてやるっ！すまんアリサ、お前はもうちょっとおあずけだ。でもアリサはマゾだから、もう少し待てるよなっ」
「アハッ。さすが教官先生です！ごめんなさいアリサさん。でもここまでオチ●ポをビクビクにさせたんだから、私が先でいいですよね。ねっ？」
ぎゅむっ
ぷるんっ
ぷるんっ
たぷんっ
ビクン♥

「ハァハァ、すごいですっ。ガチガチに大きな、ザーメンのパンパンに詰まった勃起チ●ポッ。私を孕ませちゃった命中率の高いこのオチ●ポで、また私のオマ●コ、ナカ出しされちゃうんですねっ！」
「ああ、そうだ。アリサから奪い取ってまでチ●ポをほしがった悪い教え子の子宮に、濃厚ザーメンをたっぷり直撃させてやるからなっ！」
「ふあぁぁ～、やらしすぎですぅ。でもでも、興奮でオマ●コパクパクしちゃってますっ！アァン、焦らさないでください。はやくぅ、オマ●コにザーメンぶっぱなしてぇ～っ！！」
ビク
ヒク
はぁ～♥
はぁ～
ビク
キュン
キュン♥
キュン
キュン♥
ギュン
ギュン
フルフル…

「ひうぅ～んっ！　入ってきたぁっ。
私のグショグショのオマ●コにぃ、
教官先生の極太オチ●ポ、ズップリ入って
子宮がロックオンされちゃいまひたぁ、アァンッ」
「くうぅ～っ！　ヌルヌルマ●コ、気持ちいいぞっ。
いいか。まずはじっくり狙いを定めるんだ。
よし、これでカノンの淫乱な本性を引きずり出す
最高の一撃をくれてやる準備は万端だっ！」
「アッアッ、私、こわされちゃうぅ……。
教官先生の極太オチ●ポに、
妊娠オマ●コめちゃくちゃにされちゃうんですねぇ。
ンハァァンッ！　ゾクゾクがとまりません～っ！！！」
ゾクッ
ゾクッ
はー
ぐぐぁ…♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「きゃひいいい～んっ！！
きたっ、きましたっ、しゅごいズボズボがぁ～っ！
オマ●コの奥をガンガン突かれてっ、アッアッ、
頭のナカがグチャグチャになりまひゅ、ンアァ～ッ！！」
「オラッオラッ！　感じろ、カノンッ！！
デカパイとボテ腹ブルブル揺らして、
孕みマ●コをガン突きされてアへりまくれっ！
ケダモノの本性を剥き出しにするんだっ！！」
「アヒアヒッ、ハヒイィ～ンッ！！
アッアッ、頭のナカが真っ白にいっ……
もっとよっ、もっとメチャクチャにするのぉっ！
ズボズボしまくるのよぉっ、ンハアァーンッ！！」
ヒクッ♥
はッ♥
ビクンッ
ズチュッ！
ピク
ビクッ
ピクッ♥
ヒク♥
ズーンッ！

「ンホオオ〜〜ンッ！！
いいわぁっ、ナカ出しザーメン
ビュルビュル子宮に当たってるわぁっ！
孕みマ●コ、ナカ出しでイクウゥゥーッ！！」
「くおぉぉ〜っ！　イキマ●コが射精チンポを
ジュパジュパしゃぶりまくってるっ！！
出すぞ、まだ出るぞっ！　ドスケベカノンに
ザーメン搾り抜かれるぅ〜っ！！」
「アハアァァ〜ンッ！！
ナカ出しザーメンたまらないわぁっ！
もっと、もっとドピュドピュ出すのぉっ！
子宮にザーメンぶっぱなされてイクウゥゥ〜ッ！！」
はぁ〜ん♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュビュビュビュッ
ビュビュビュビュッ
ビュビュビュビュ

「ふあぁ、はひいいぃ〜っ……。
オマ●コ、開きっぱなしになっちゃいましたぁ。
アァン、きもひよしゅぎてオッパイからミルクがぁ。
オッパイもオマ●コも白いミルク垂れっぱなしですぅ」
あ…あふぅ…
ビク
ヒク
プシュッ
ゴプッ
ゴポポ…
ヒク
ヒクク…
はー…っ
はーっ
プシャァァッ
「そ、そうでしょうか？　やんっ、うれしくなって、
オッパイからミルクがしぶいちゃいました。えへへ」
私のどんな顔も受け止めてくれる教官先生に感謝しながら、
私はナカ出しのキモチよさにず〜っと浸っていました……。
「うはぁ〜。カノン、ドンドンエロくなっていくな。
本気のカノンに貪りつくされるともたまらないけど、
普段のカノンがエロく染まってくのも最高だよ」

「アァッ、もうカノンさんとのセックス、終わりましたよねっ！
次は私と生ハメセックス、ズボズボって
しまくってくれるんですよね、ハアァンッ！」
「待たせたな、アリサ。俺とカノンのガチハメを見て、
オナニーしながら待ってたのか。
アリサのスケベマ●コ、ますます
汁塗れでビショビショになっちゃってるな」
「アッアッ、そんなの、仕方ないじゃないですかっ！
オチ●ポの順番奪われて、アンアンッ
あんな激しいセックス見せつけられたらぁっ！
オマ●コうずきすぎて、早く、早くチ●ポォ～ッ！！」
ヒク
ヒク
ヒク
ヒク
フルル♥
フルッ
ぬわっちゃっ♥
くぷぷ…
ぷるっ
ぷるるっ
はっ♥
はーっ♥
はやくぅ…♥

「オヒイィィィーッ!?
なんでぇ、なんでアナルにチ●ポッ、アッアッ!
ずっとオマ●コ待ってたのにぃっ、
おあずけでアナルレイプなんて、アハァァ〜ンッ!!!」
「そう言いながら、アリサのアナルは
ビクビク悦びまくりだぞっ!
マ●コおあずけでアナルレイプ、
マゾのアリサには最高だろ、そらそらぁっ!!!」
「アヒッアヒッ、ハヒイィィ〜ンッ!!
アンアンッ、私、感じちゃってるぅっ!
オマ●コおあずけされて切ないのにっ、
アナルをズボられまくってイキまくっちゃうぅ〜っ!!!」
ズブッ
ズッ
ヒワ
キュカカッ
ヒワ
ズブッ!
ビクッ
たゆんっ
ぱチュッ
ぱっ
ぱっ
ビシッ
ビシッ
ズるんっ

「ンホオオオーーンッ!?
イクッイクッ、イクウゥゥーッ!!
アナルにビュクビュク、ザーメンはじけてぇっ!
おあずけオマ●コもいっしょにアクメしてまひゅーっ!!」
「くはあぁーっ!!
アナルがビクビクイキまくりながら
チ●ポをギュムギュム搾りまくってるっ、
ザーメンギュンギュン吸い上げられるぅっ!!」
「アヒイィッ、ハヒイィィーッ!!
射精オチ●ポしゅごいいっ、
アナルにビュクビュクたまらにゃいれひゅっ!
オマ●コも勝手にイキッぱなひ、はへぇぇぇ~っ!!」
ブル
ビュッ
ブビュッ
ビュビュビュッ!
ブル
フルルッ
ビクッ
キュン
キュン♥
ビクッ
ビクッ
フルル…
はぁ♥
はッ♥
あぁぁぁんっ♥

「ンハアァァ～ッ！
ザーメンゴピュゴピュ、しゅごい量があふれてぇ……
そのザーメン、オマ●コにほしかったのにぃ。
ンアァ、でも、アナルアクメも最高れひた……」
ごぷぷっ
ぷピッ
ぷぴゅぴゅっ！
ぴゅっ
アナルからゴプゴプこぼれてるザーメンを見ていると、
おあずけされたオマ●コがキュンキュン疼いちゃいます。
マゾのわたしをイジメるイジワルでドン引きな、
でも最高のオチ●ポに、もうわたしはメロメロなんです……。
ヒク
たっぷんっ
たゆんっ
「あ～っ！　いいな～、アナルにザーメンッ」
「フフフ。私もケモノのように、アナルに注がれたいわ」
「わ、私もですっ。アナルにぶちまけられたいですっ！」
いつの間にか、皆の視線も私のアナルに集まっています。

「次はわたしにアナルでアクメさせてくれるんでしょ。
ね～、先輩っ♪」
「アナルで狂うほどに喘ぎ鳴かされる……。
想像するだけでゾクゾクするわね。フフフ……」
「アナルでイカせてくれなきゃゆるさないって、
私、言ったよね？　あ、言ってませんか、エヘヘッ」
「ちょっと、ずるいですよみんなっ！　私のオマ●コは
まだおあずけ中なんですから。次は私のナカ出しですっ！」
俺の肉棒に群がる、貪欲な肉棒喰らいの美少女たち。
孕ませた４人の牝にもみくちゃにされ、
全ての穴へ精液をねだられながら、
俺は蕩けるような快楽に今夜も呑み込まれるのだった……。

夜も更け、真っ暗になった無人のロビー。
俺に孕まされてポッコリとお腹を膨らませた
二人の美少女オペレーターが、手袋とサイハイソックスのみ
という扇情的な姿で、露出の羞恥に震えながら現れる。

「ンアァ……今日もまたここでするんですね。
しかも今日は、ヒバリさんの目の前で……。
キャッ！？　そんな、抱きしめないでください。
ヒバリさんの前なのに、私……ハァァッ……」

「うふふ、フランさんのオマ●コ、
ヒクヒクしちゃってますよ。
今から私の目の前で極太チ●ポにズボズボされちゃう
と思って、発情しちゃってるんですね」

「そ、それは……ンハアァッ！
おしりに、オチ●ポズリズリしないでください。
オチ●ポが硬くて熱くて、アッアッ、
ヒバリさんの前なのに、おしりが動いてしまいます……」

「気にするなよフラン。
むしろヒバリも見たがってるぜ。
ノゾキで興奮するヒバリに、フランがどんな風に
腹ボテになったか、説明してやれよ」

「そ、そんな……。アァ、は、はい……。
私は仕事中に何度も、後ろから抱きしめられ、
バックからオチ●ポをズボズボされています……。
このお腹も、その時のナカ出しで……ハアンッ」

「クールな顔をして、私の知らないところで
そんなやらしいことをしてたんですね、フランさん。
今もオチ●ポレイプを期待して、
オマ●コがグショグショになっちゃってますよ」
「アァッ、見ないでください、ヒバリさん。
そんなに卑猥に、ンハァ、解説しないでください……」
「恥ずかしがりながらも、エロ尻が動いてるぞフラン。
ヒバリ、もっとエロく解説してやってくれ」
「はいっ。ガチガチの勃起チ●ポが、フランさんの
ヌレヌレオマ●コをしっかりロックオンしてますよ。
フランさん、ズブズブゥッてハメられちゃうんですね。
ハァンッ、私も興奮でオマ●コがビチョビチョですぅ」
ヒク
なぁ♥
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

「ンハアァァーンッ!!
オチ●ポが、ズブズブバックから入ってきましたっ。
アッアッ、オッパイギュムギュムつぶさないでっ、
乳首クリクリしないでください、ハアァンッ!」
「ヒバリの視線で犯されて、フランのクールなマ●コも
火がついてもうトロットロだなっ。
ほ〜ら、ビンカン乳首もイジメまくってやる。
ヒバリにガチハメ見せつけるぞっ、そらっそらっ!」
「アンアンッ、ヒアァンッ!!
見られていますっ、激しいセックスッ!
バックから獣のように犯されている姿を、ハァンッ!
バックレイプでメロメロなのを見られて、アヒィ〜ッ!」
ズブッ
ズンッ
ズチュッ
ブチュッ
ゼクッ
ゼクッ
ぎゅむぅ
ぎゅぅ
ぎゅぅ
ぎゅ

「アッアッ、イクッ、イクウゥーッ！！
アァンッ、オチ●ポ抜けちゃいましたっ。
私のナカ出しザーメンが、ンアァッ、
ヒバリさんの顔にビチャビチャかかってぇっ！」
「あぷぷっ！？　顔射しゅごいれしゅっ！！
フランさんのオマ●コで搾ったザーメン、お顔にぃっ！」
「くあぁーっ！　射精が止まらんっ！
フランのキツマンでヌイて、ヒバリにぶっかけだっ！」
「アァンッ！　そ、そんなのズルイですっ！
私がもらうはずだった、アッアッ、ドロドロの
特濃ザーメン、全部ヒバリさんにっ。
ンアァ、でも、顔射見ながらイクッ、イクウゥーッ！！」
ああぁんっ
イムラッ♥
はぅ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビッ
ブルッ
ビュルッ！

「んぶあぁっ、アハアァァーンッ!!
私もイッちゃうっ、顔射でイッちゃいますぅ〜っ!
こってりザーメンたまりませんっ、くしゃいニオイも
クラクラひてぇ、オマ●コしぶいちゃうぅ〜っ!!」
「ぶっかけでイキまくりだなヒバリッ。
マ●コからブシャブシャ潮噴きまくりだぞっ!」
「アァ、ヒバリさん、手袋を填めた手でグチュグチュと
自分で顔やオッパイにザーメン塗り広げて……」
「んはあぁ、ぶっかけキモチイイ〜。
ザーメンのヌルヌル最高ですよぉ、フランさぁん。
見てください、もっといっぱい見てぇ〜。
ぶっかけ便器になっちゃった私を、ンハアァ〜ンッ!!」
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「うう、す、すごいです……ハァハァ。
あの朗らかなヒバリさんが、ザーメンまみれにされて、
アクメ狂いの淫乱お便器になって……。
わ、私……私も、もっとメチャクチャに狂いたい……」
「どうしたフラン、ザーメン塗れのチ●ポに
自分からヒップをグリグリ押しつけて。
お前もザーメンほしいのか？
ヒバリみたいにグチャグチャにイキ狂いたいのか？」
「ンアァッ、はい、はいっ！
どうか、私にもザーメンをっ。今度こそ子宮を
ザーメン漬けにして、私もイキ狂わせてくださいっ！」
でも、私のおねだりより早くヒバリさんが口を開けて……。
びくん
ハァ…♥
ヒク
ズリ
キュウウ…♥
ヒク
ズリ
ヒク
ムギュッ
キュンッ
キュンッ
ヒク

「はぶぶっ！　ダメれひゅよぉ、フランしゃん。
フランしゃんはオマ●コにチ●ポもらったんらから、
ジュポジュポ、次はわたひの番れひゅ、
ジュプルル～ッ！　チ●ポ、チ●ポォ～ッ！！！」
「アァ、そ、そんなっ。ヒバリさんこそ、ズルイです。
そんなにたくさんザーメンもらったのにっ。
ああっ、ダメです、お口のナカでチ●ポビクビクしてはっ」
「そんなこと言っても、くうぅ～、なんてバキュームだっ！」
「ジュパジュパッ、ガポガポ、ジュブジュブ～ッ！
あむぅん、ザーメンチ●ポ、おいひしゅぎれしゅう。
このまま喉マンにグポグポひてくらひゃいい～っ！」
フランさんには悪いけど、私もうオチ●ポから離れられませんっ。

「うう、このままではヒバリさんに
オチ●ポを独占されて……。
わ、私も、負けませんっ。
恥ずかしいけど、こんなことだって、ンベロォ〜ッ！」
「んぷんぷ、アハァ、クールなフランさんが、
そんなやらしいことまでしちゃってるなんてっ。
私も負けないれひゅよ、プポップポッ。
ザーメンのためならなんれもひまひゅ、ムジュルル〜ッ！」
発情した牝獣と化した二人の美少女オペレーターは、
普段の冷静さをかなぐり捨て、快楽を求めて貪欲に
肉体をくねらせる。俺はねだられるがまま、
今夜も二人に精をぶちまけつづけたのだった。

今夜も夜遅く、彼が訓練所にやってきた。
今日も、他のキレイな子たちを
いっぱい抱いてきたんだろうなって、わかってる。
それでもこうして、私の所に来てくれるのがうれしくて……。

「もう。今日もこのチ●ポでいっぱい女の子を
鳴かせてきたんでしょ。
神機と同じで、あんまり乱暴に使いすぎたら
壊れちゃうんだからね？」

「大丈夫だよ。俺にはリッカがいてくれるから。
こうしてリッカの裸を抱きしめれば、ほら、
すぐにギンギンのチ●ポに復活だ。ハハッ」
そう言って笑う彼と、勃起したチ●ポが愛おしくて……。

ぐむむ…
ヒク
ヒク
ぐぷっ
ぴくっ
ぴくっ
ぷるる…
ぱーっ
ぱぁ♥
ヒク
「ふふっ。仕方ないなぁキミは。
今夜はムリしなくていいからね。
私が動いてあげるから、ンッンッ、
キミはそのままジッとしてて、ンハァンッ」
「やさしいな、リッカは。ポテ腹がスリスリこすれるのも、
ヌルヌルのスケベオイルにたっぷり塗れたマ●コも、
くうぅっ、気持ちいいぞ。
ますます興奮して、ジッとなんてしてられなくなるっ」
「アァッ、うれしい、私みたいなオイルのニオイがする
女の子に、こんなふうに興奮してくれるなんてぇっ。
アンッ、アンッ！ う、動いちゃダメだよぉ。
私が全部してあげるのに、アッアッ、ハァンッ！」

「アンッアンッ、アヒイィィ〜ッ！
はげしいっ、ズボズボはげしいよぉっ！
私がしてあげるはずだったのに、アッアッ、
キモチよすぎて動けなくなっちゃうよ、アハアァンッ！」
「くうぅ〜っ！　リッカのマ●コ、突けば突くほど
オイルがダラダラ溢れまくってくるぞっ！
リッカを心配させるわけにはいかないからな。
俺のチ●ポが万全なとこ、たっぷり見せてやる、そらっ！」
「アヒッアヒッ、ハヒイィィ〜ンッ！！
キミのチ●ポ、やっぱり太くて硬くて最高だよぉっ！
アッアッ、私、イカされるうっ！
孕みマンコ、ますますキミのチ●ポになじんじゃう〜っ！！」
ギッ
ズプッ
ズプッ
ビッ
ビッ
ギッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
はぁ〜♥
はぁ〜
あぁんん♥

「ンハアァッ、イクイクッ、イクウゥゥーッ!!
ザーメンドピュドピュ、子宮に流し込まれてるぅーっ!
オマ●コとまんないっ、イクのとまんないいっ!
ナカ出しされてよろこんでりゅっ、ンヒアァァーンッ!!!」
「くあぁ〜っ、最高にかわいいぞ、リッカのイキ顔っ!
メチャクチャきもちよさそうだな、
ベロ〜ンと舌を垂らしてさ、ジュパパッ。
ほらほら、もっと俺のニオイを染みつけてやるぞっ」
「んぶあぁっ、今、舌をしゅわないれぇ〜っ!
アンアンッ、またイクッ、オマ●コイキまくりゅ〜っ!!
オマ●コ勝手にヒクヒクしてりゅ、ナカ出しザーメン
おいひそうにゴキュゴキュして、味を覚えてりゅのぉ〜っ!」
ビクッ
イイ顔♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「アハァァ～ッ。いっぱいイカひゃれちゃったぁ。
私がキミに、ひてあげるつもりらったのにぃ～。
ペチョペチョッ、れも、これで太鼓判らよ。
キミのチ●ポ、やっぱり最高の逸品らよ、ムチュチュッ」
ピク
…はぁぁん♥
フルル…
「チュパパッ、リッカのお墨付きだ、これで安心だな。
ああ、リッカのネットリした舌と手袋を填めた手が、
神機に触れるみたいに丁寧にサワサワ這い回ってっ。
くうぅ～っ！　またガチガチに勃起しちゃったぞっ！」
ヒク
チュパッ♥
ハァハァ
ぢゅぷぷっ♥
「んぷんぷ、アハァ、それじゃいっぱい試し打ちしてぇ。
キミのオチ●ポメンテはこれからも、
私のだいじな仕事らからぁ、アハァンッ」
そして私は今夜も夜通し、彼の射精を受け止めたんだ……。
きゅっ♥
きゅっ♥
ビクク…